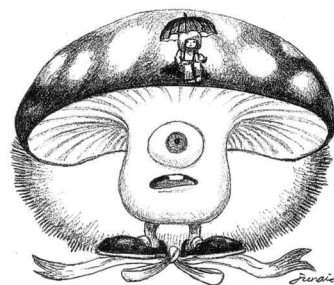


歌壇

俳壇



＜日曜日のブローチ 33＞ junaida

俳句時評 精緻と体当たり

岸本 尚毅

板倉ケンタの『花一虫』（ふらんす堂）にある「秋冬となく繰りかへし蠅の来る」は奇妙な作だ。夏の季語の「蠅」と別に「秋の蠅」「冬の蠅」という季語があるが、この句は秋と冬ともつかない。「繰りかへし」は、秋にも冬にもという意味のようでもあるし、追い払っても何度も来る様子のものである。無造作に蠅を詠んだようで、重層的なニュアンスを伴った巧緻な句とも思える。

「雨粒のかさなりゆくは秋の百合」は「ゆくは」の「は」が面白い。「ゆきし」「ゆける」「ゆくや」が無難だが、「ゆくは」と書くことで雨と百合とが一つになったような印象が得られる。百合は夏の花だが、秋にも美しく咲く。板倉の対極にある句境と思われるのが北大路翼の「給食をばさん」（角川書店）だ。編集者だった著者（男性）は学校の給食室に転職し「給食のをばさん」ならぬ「をばさん」を自称。本書は日々「献立を記した一年間の句日記だ」。

たとえば「五月三十一日」の献立は「チキンピラフ、卵スープ、スパイシーポテトビーンズ」。日記に「ミサイルが降る日も給食を作つてゐる。五月尽。」とあり、その日の俳句は「スパイシーポテトビーンズテポドン来」だ。

「テポドン」と「ポテト」の音の類似を面白がった作。五七五の定型にのせた言葉のリズムが生きて生きている。北朝鮮のミサイル発射という事態を俳諧にしてみました。たかな句だ。

一九九九年生の板倉の精緻な句と、一九七八年生の北大路の体当たりの俳人格。現代俳句の間口は広い。（俳人）

風信

第2回定家賞 短歌研究社主催。川野芽生さん(33)の第2歌集「星の嵌め殺し」（河出書房新社）に決まった。第2歌集以降の作品が対象。

第37回歌壇賞 鹿児島市の霧島茉莉さん(36)の「柔らかい襟」（30首）に決まった。「かりん」所属。本阿弥書店の「歌壇」誌の新人賞にあたる。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます。（週刊2作品まで） QRコード

● 佐佐木幸綱選

灯をともし軌道の雪をはね飛ばす初出勤のサラ電車は
（札幌市）藤林 正則
閉じられたビーチパラソル並びおり大磯ホテルの夏も終わるぬ
（西東京市）佐々木節子
威勢よき大言吐けども容貌に年齢相応を見するトランプ
（舞鶴市）吉富 憲治
コスモスとアキアカネの中漕ぎゆくは青梅街道自転車の旅
（入間市）比和野昭治
昆虫の自販機興味津々で男児が見てるコオロギバツタ
（茨木市）瀬川 幸子
研ぎ師より三泊四日で戻り来しハサミ愛おしその音を聞く
（三島市）湖野 里子
片付かぬ長女と頑固な孫娘我に似てると妻は言い張る
（京都府）片山 正寛
毎日を東京タワー見て過ぐす港区民のように病棟に
（東京都）津和野次郎
花の名を尋ねてくれる人ありてガーデニングは孤独じゃないな
（さいたま市）萩谷 則子
往診に往き来のおもひだす峠のみに
（大分市）岩永 知子
コンギク咲く

【評】第一首、札幌では十一月八日にササラ電車が初出勤した、と注記にあった。第二首、夏の終わりを告げる光景を的確にとらえて、うまい。第三首、七十九歳のトランプ大統領の年齢をクローズアップした珍しい一首。

● 高野公彦選

四千円未満の新米買うために往復五キロの道のりを行く
（つくば市）山瀬佳代子
武器といはず防衛装備品といふ「転進」とかついていひこの国
（西条市）村上 敏之
瑠璃の環は影も瑠璃色はるばると月の砂漠を渡りし記憶
（奈良市）山添 聖子
朝よりグルメ番組絶ゆるなくこの国の「文化の日」が暮れてゆく
（東京都）上田 国博
室生寺に昨日さしし傘ひらく掌にはりきりりと散る金木犀
（箕面市）大野美恵子
稲穂にも触れたことない人たちが増産減産議論している
（金沢市）竹内 一二
直下見るスカイツリーのガラス床親は目を閉ぢ児は目を睨る
（和歌山市）吉田 孝
日香ちゃんと呼び違へても花びらのほくくるやうに笑ふ嬰兒
（大分市）岩永 知子
59年家族を支えた家を売る二度と戻らぬ父母との時間
（北広島市）前田 真志
空襲でミシンの脚だけ残ったの繰り返す母九十九歳
（八幡市）五百旗頭幸子

【評】1 首目、このごろの米価高騰を嘆く。2 首目、政治家や軍人たちが言語操作で事実を誤魔化しようとする事への批判。3 首目、正倉院宝物の一つ「瑠璃環」の美しさを浪漫的に讀める歌。4 首目、「文化の日」もグルメ番組が目白押し。

● 永田和宏選

偶然と偶然が出逢いこの命四つの塩基の織りなす螺旋
（八尾市）宮川 一樹
「射殺」とう無き言葉は使用せずハエ蚊のごとく熊は「駆除」さる（加東市）藤原 明
熊鈴をつける子つけぬ子各々の下校始まる盛岡市街
（盛岡市）福田 栄紀
魚類から両生類へ進化する途中のやうな沙魚の顔立ち
（村上市）鈴木 正芳
午前三時の総理に合せてたぐさんの起きねばならぬ人びと
（観音寺市）篠原 俊則
空襲の下でかばちゃんを植えてゐる徳川夢声の敗戦日記
（蓮田市）石橋 将男
カギ針で記憶拾って紡がれた海馬よ海馬ほどけるなかれ
（横浜市）和田 順子
しなればならないこととしたいこととでなくなるならどちらを選ぶ（綾瀬市）小室 安弘
おかあさん、ありがとと云うべきをこめんねとしか言えぬ苦しさ（厚木市）本庄 伸子
名を知らぬ黄色い花に「きれいだと妻に言わぬ言葉サラリと
（福島市）亀岡 広子

【評】宮川さん、DNAの二重螺旋の発見者、J・D・ワトソン博士が亡くなった。四つの文字（塩基）の配列に私たちの命の遺伝情報はすべて詰まっている。藤原さん、駆除という言葉への違和感と多くの人にも感じるところ。「無敵無き」は無敵に同じ。

● 川野里子選

みんなからおまえだおまえだおまえだと言われはいてと答えてしまふ（横浜市）富尾 大地
娘が孫がピースして笑む家族写真は薄いガラスに守られている（山口県）庄田 順子
無人機は何度も襲いくるという 枯蓮の池に風が吹き込む（生駒市）高橋 裕樹
ひざ掛けも箸も業者が運び出しおばあちゃんちには解体される（横浜市）菅谷 彩香
「今どこ」と「OKです」の2行だけ息子とのライン研ぎ澄まされぬ（流山市）坂本真衣子
人間が一番怖いと作業員なにかあったか怖い顔して（神戸市）小澤 敏夫
九十一の夫に足の爪切ってもらったこんな夜もありダイヤモンド婚（宇都宮市）渡辺 慎子
自画像の瞳に小さく白点を打ってゴッホはなにをみんとす（東京都）野上 卓
それぞれに名を持つ小鳥あちこちに子沢山あり三陸の海（江別市）長橋 敦
バリカタもハリガネも旨いラーメン屋のいつもふにやふにやしてゐる割り箸（福岡市）犬山 裕之

【評】一首目、ひらがなが同意を迫られる怖さをいっそうリアルにした。三首目、蓮田を吹く風に戦地の無人機の風が重なる。五首目、必要最低限のメールは緊急時の生存確認のよう。十首目、博多っ子が好むのは箸さえ軟に感じる硬麺だ。